



新年を迎えて

会長 市原 美幸



令和初の新年、そして東京オリンピック開催の年がやってきました。
会員の皆様は新年をいかがお過ごしでしょうか。

昨年10月以降を振り返りますと、定例の患者会の他に、10月6日に施設見学として日野原記念ピースハウス病院を見学しました。

そして11月は府中市民協働まつりに参加し、ライトニングトークで、当会活動の紹介と早期緩和ケアについてクイズ形式でアナウンスを行いました。

会場では子供へのクイズとチラシ(がん予防の新12箇条)の配布により、がん予防の大切さについて働きかけると共に、同伴の親御さんに対しても早期発見のためにがん検診を受けるよう働きかけをいたしました。

12月の講演会では、「がんになったら緩和ケア～不安や痛み早く対処するために～」と題し、東京都保健医療公社荏原病院副院長 芝祐信氏と、乳がんステージIVスライバー小島紀子氏によりそれぞれ医師、患者の立場から早期緩和ケアの講演、アドバンス・ケア・プランニング(ACP) * 1、についてもお話しをいただきました。

12月までの活動を終え、新年を迎えるわけですが、ほっとしたのもつかの間で、早々に5月の総会と講演会に向けての準備を行っていく次第です。

会員の皆様に残念なお知らせをしなくてはなりません。

当会の創設者であります市村晴子さんが11月に他界されました。

当会は2001年より府中がんケアを考える会として発足しましたが、当初から市村さんは副会長として

2019年6月まで活動にご尽力されました。強い喪失感を抱きながらも市村さんの思いを継承し前進しなければなりません。

これからの活動も、がんケアに関する啓発、普及活動の他にがん患者さんや家族が正しい情報を得ることで安心して検査、診断、治療が受けられ、その人らしく生活がおくれるよう医療との橋渡しができる事を目指してまいります。



会の活動に際しましては会員の皆様のご理解とご協力、そしてご支援頂いております事、心より感謝申し上げます。

2020年はどんな年になるでしょうか・・・今年こそは災い少なく笑いの多い年になりますようにと願うばかりです。

本年もよろしく願いいたします。

*1:アドバンス・ケア・プランニング(ACP)

英国緩和ケア協議会の定義によると

「今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス」とされています。厚生労働省では、ACPがより馴染みやすい言葉となるよう「人生会議」という愛称で呼ぶことに決定しました。そして11月30日(いい看取り・看取られ)が人生会議の日となりました。

「人生会議」とは、もしものために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取り組みの事です。(厚生労働省HPより)

第5回府中市民協働まつり ～つながりは無限大∞～

参加のご報告



今年の祭りは8月から始まった8回の実行委員会を経て、市内で多様な取り組みをしている市民と行政、企業の114団体が参加し、11月23、24日に行われました。

第5回を迎えた今年は特に青少年を対象とした企画を行うことで新たな参加層を生み出し、より多くの世代交流を図る内容になっていたようです。

中でも印象深かった企画は市内在住のクイズ作家による“謎解きミステリーツアー”です。

問題用紙を手を持った子供達や若い人がガラス窓から

見える景色に“なぞをとく”ヒントを得て回答を導き出していました。

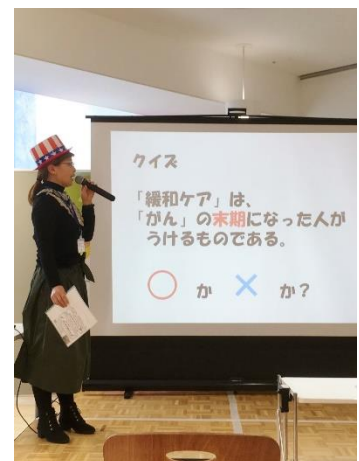
クイズ作家の名前を知ってこの祭りに来た参加者が多数いた、との報告が運営委員からありました。

私たちは23日のみの参加でしたが、同じ部屋になった団体の明るさのおかげもあって例年より多くの家族連れや、子供たちとがん予防の話などをすることができました。

ライトニングトークでは会の紹介を端的かつ明瞭にアピールすることができました。

関連する団体の方が参加されて私たちの力になっていただきました。会員の方々もブースにお立ちよりいただきました。

皆様のおかげで今年のまつりも楽しく、意義深く参加することができましたことをここに感謝します。



市村さんありがとう、さようなら

役員一同



市村晴子さんは2010年に大腸がんにより手術を受け、数年後に再発し抗がん剤治療を受けながら、当会の活動以外にも、聖路加国際病院、ライフ・プランニング・センター、ピースハウス病院へのボランティアとして2019年6月まで意欲的に活動を続けてこられました。

そして療養の際に市村さんが望まれたのは、できる限り自宅で過ごし、動けなくなったら聖路加国際病院の緩和ケア病棟へ入院する事でした。ご希望通り、2か月間在宅療養の後に緩和ケア病棟に入院され11月10日安らかに永眠なさいました。

私たち「府中がんケアを考える会」発足のきっかけは、まさに市村晴子さんでした。名称も当初は「府中ホスピスを考える会」であった事から分かるように、市村さんが日野原重明先生との親交から、ホスピスケアの重要性とホスピスの必要性を強く説いていました。当会での肩書こそ副会長でしたが、実質的には市村さんの存在無くして、府中市でのがんケアやホスピスケアの普及啓発運動は語れません。

市村さんが取り組まれた活動は、まさに「人間の一生をどう考えるか」でした。すべての方が、その人らしく最期を迎える事ができる社会を目指していました。

市村さんが取り組まれてきた活動を、私たちがしっかりと継承していく事が、私たちができる最大の供養になると思います。市村さんのこれまで尽くされた運動とご功績に、心から敬意と感謝を申し上げます。どうか天国から私たちの活動を見守っていただけるよう切に願い、ご冥福をお祈りいたします。市村さん、本当にありがとうございました。

日野原記念ピースハウス病院 見学記

宮田乃有



去る10月6日、神奈川県のある秦野にある「日野原記念ピースハウス病院」(以下ピースハウス)を役員4名で訪問させていただきました。

ピースハウスは、故日野原重明先生の主導で1993年に設立された、日本初の独立型ホスピス(緩和ケア病棟)です。独立型というのは、総合病院の中に設けられていたり、病院の敷地内に併設されたりしているのではなく、緩和ケア科のみの専門施設として設立されているという意味です。施設内はゆっくりした時間が流れており、ボランティアコーディネーターの志村さんによる施設案内を通して、『ピースハウスはやすらぎの家である。ここで時をともにする人はみなそれぞれの生き方を尊重する』という理念が隅々までいきわたっていることが理解できました。

手入れの行き届いたお庭や、生活感を保てるよう工夫されたお部屋の調度品は、ボランティア活動の賜物であり、ピースハウスの特徴でもあります。

当会の副会長であった故 市村晴子氏も、長年ボランティア美容師としてピースハウスに入院されている方々の髪を整え、おしゃれを楽しめるようにご尽力されていました。

ホスピスケアを利用するには、まず電話相談が必要です。病室の空室状況にもよりますが通常7日以内に来院相談を受け、それから2～3日後には入院出来るようです。施設には22床(ベッド)の病室があり、13床が個室で1日18,000円(税抜き)の室料がかかります、4床室が2つあり室料なしとなっています。

年に数回オープンホスピス(見学会)が開催されており、今回は2020年2月21日(金)とのことです。詳しくはホームページをご参照ください。

建物写真はホームページより



一般財団法人 ライフ・プランニング・センター 日野原記念 ピースハウス病院
〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口 1000-1 TEL0465-81-8900
<https://www.peacehouse.jp/index.html>

会員の皆さんにお願いがあります。

ホスピスを考える会以来20年が経過し会の運営も大きく変わってきました。役員会は7人で運営していますが、ご高齢の方にとっては参加が難しくなっています。月1～2回の役員会にご参加できる方がいらつやいましたら、ぜひお手伝いをお願いしたいと思います。とりわけ会計を担当して下さる方を募集しています。よろしくお願ひします。

今年の予定

日時	行事	会場
1月26日(日) 午後1時30分～	患者会	プラッツ 第6会議室
2月23日(日) 午後1時30分～	患者会	プラッツ 第6会議室
3月15日(日) 午後1時30分～	患者会	プラッツ 第6会議室
4月26日(日) 午後1時30分～	患者会	プラッツ 第6会議室
5月24日(日) 午後2時～	19回総会、講演会	プラッツ 第2会議室
6月28日(日) 午後1時30分～	患者会	プラッツ 第6会議室
7月19日(日) 午後1時30分～	患者会	プラッツ 第7会議室
8月23日(日) 午後1時30分～	患者会	プラッツ 第7会議室

編集後記

無事12月講演会を終えることができました。市村さんの訃報に接し悲しまれた方も多いかと思います。5月の総会、6月の通信発送が最期の活躍でした。私がお会いできたのは聖路加病院が最期でした。

発行 府中がんケアを考える会・会報編集部

連絡先 183-0053 府中市天神町3-7-47 武智 一雄

電話 090-7729-4429

Mail: ktakechi@fuchugancare.org